



2023年2月10日

各位

会社名 日華化学株式会社  
代表者名 代表取締役社長 江守 康昌  
(コード番号：4463 東証プライム・名証プレミア)  
問合せ先 取締役執行役員 管理部門長  
澤崎 祥也  
(TEL：0776-24-0213)

## 中期経営計画「INNOVATION25」について

この度、日華化学グループは2021年2月26日公表の中期経営計画「INNOVATION25」(2021～2025年)を更新しましたのでお知らせいたします。

記

1. 企業パーパス  
『Activate Your Life』
2. 中期経営計画「INNOVATION25」基本骨子
  - (1) 全社基本ビジョン  
「世界中のお客様から最も信頼されるイノベーション・カンパニー」
  - (2) 全社基本戦略
    - ① 事業構造の大転換：「EHD<sup>※1</sup>事業」へのシフト
    - ② メリハリのある投資：注力事業への投資、投下資本収益性向上
    - ③ 生産性改革：デジタルトランスフォーメーションの積極推進
    - ④ サステナブル経営の推進：持続可能な社会への貢献
    - ⑤ 大家族主義の進化：社員エンゲージメント向上とダイバーシティの推進
3. 3ヵ年経営目標数値（2025年度）  
売上高：570億円 営業利益：40億円 ROS：7% ROIC：7% ROE：8%

※1 環境：Environment、健康・衛生：Health、先端材料：Digitalの頭文字を取ったもの

#### 4. 株主還元方針

当社は、株主の皆様に対し安定的な配当を継続して実施するとともに、各期の業績と将来の成長のために必要な投資や今後の事業展開等を総合的に勘案し、剰余金の配当を決定しております。また、将来的に配当性向30%を目安として拡充していく方針であります。

今後も、「株主の皆様への利益還元」「財務体質の強化」「収益力向上を目指した資本の有効かつ戦略的な活用」のバランスを取りながら、その一層の充実に努めてまいります。

詳細につきましては、中期経営計画「INNOVATION25」説明資料\_2022年2月10日をご覧ください。

以上

(注) 当資料に記載されている計画及び目標等の将来に関する記述は、すべて発表日時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、経済情勢の変動等様々な不確定要因により、将来に関する記述とは異なる可能性があります。

# 中期経営計画「INNOVATION25」 説明資料



(東証プライム：4463)

2023年2月10日

## 目次

<b>1</b>	<b>___</b>	<b>日華化学の紹介</b>	<b>P 3</b>
<b>2</b>	<b>___</b>	<b>事業の特徴・日華化学の強み</b>	<b>P 7</b>
<b>3</b>	<b>___</b>	<b>中期経営計画（目標数値）</b>	<b>P 14</b>
<b>4</b>	<b>___</b>	<b>中期経営計画（全社基本戦略）</b>	<b>P 19</b>
<b>5</b>	<b>___</b>	<b>アペンディクス</b>	<b>P 35</b>

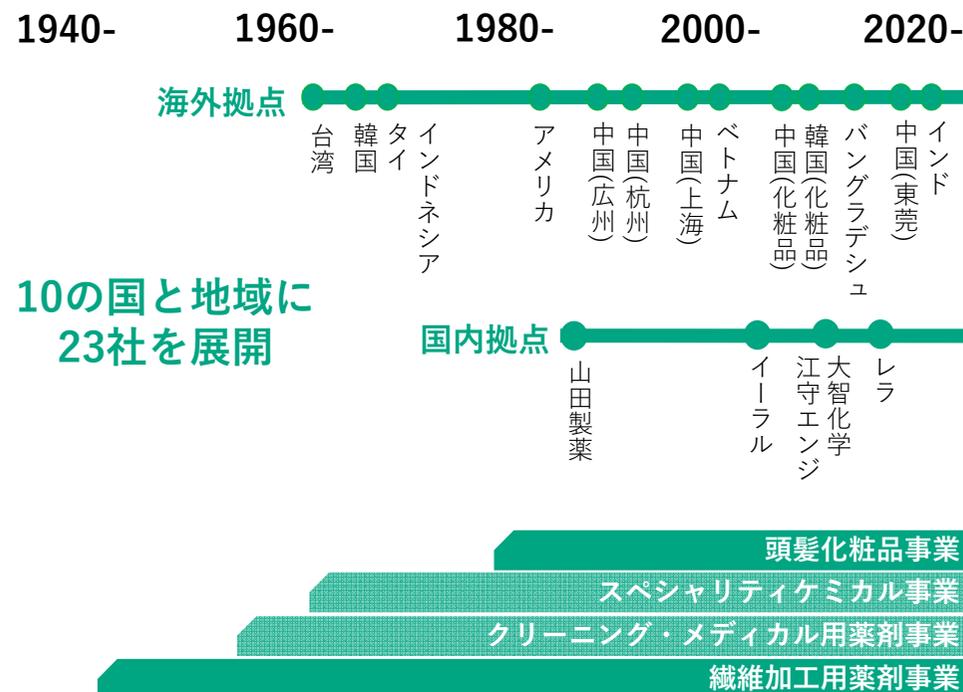
1

# 日華化学の紹介

## 会社概要

### 福井市に本社を置き、81年の歴史を持つ「界面カガク」メーカー

本社	福井県福井市
創立	1941年（昭和60年）
事業内容	化学品、化粧品等の製造・販売
資本金	28億98百万円
連結業績	売上高 506億円／営業利益 26億円 （2022年12月期）
従業員数	連結 1,472名／単体 593名 （2022年12月期）
上場取引所	東証プライム／名証プレミア



## 事業内容

### 事業領域は大きく「化学品」と「化粧品」の2つ

#### 化学品事業

繊維加工用薬剤



クリーニング・メディカル用薬剤



スペシャリティケミカル  
(機能化学品)



スペシャリティケミカル  
(先端材料)



#### 主要な関係会社

- ・大智化学産業株式会社（半導体産業向け）
- ・日華化学（中国）有限公司
- ・NICCA KOREA CO., LTD. 他13社

#### 化粧品事業

ヘアケア



スカルプケア



ヘアカラー



スタイリング

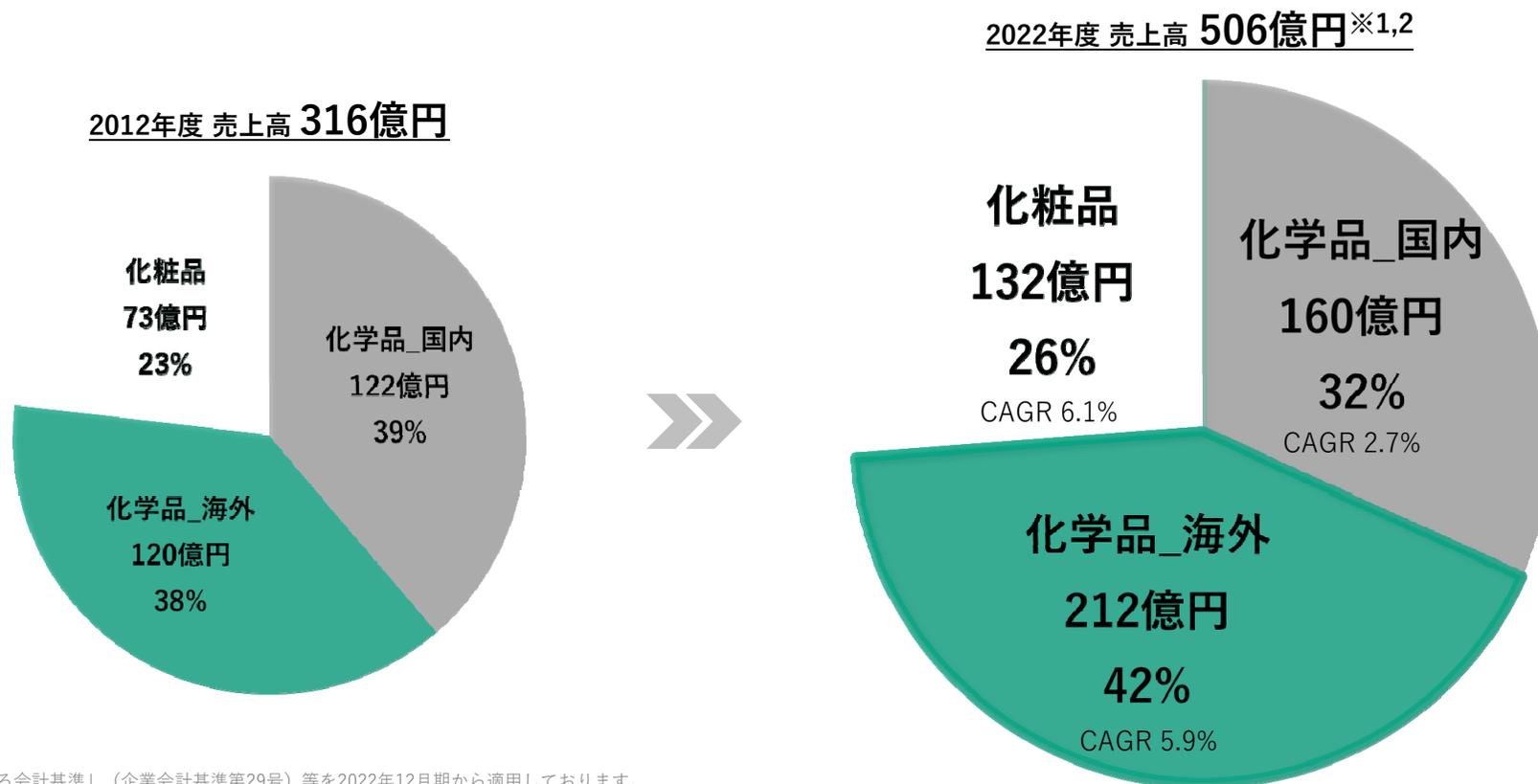


#### 主要な関係会社

- ・山田製薬株式会社（化粧品OEM/ODM）
- ・イーラル株式会社
- ・DEMI KOREA CO., LTD. 他4社

## 事業別売上高構成比 (2022年度)

### 化粧品及び化学品海外での成長により売上高が大きく増加



※1 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年12月期から適用しております。

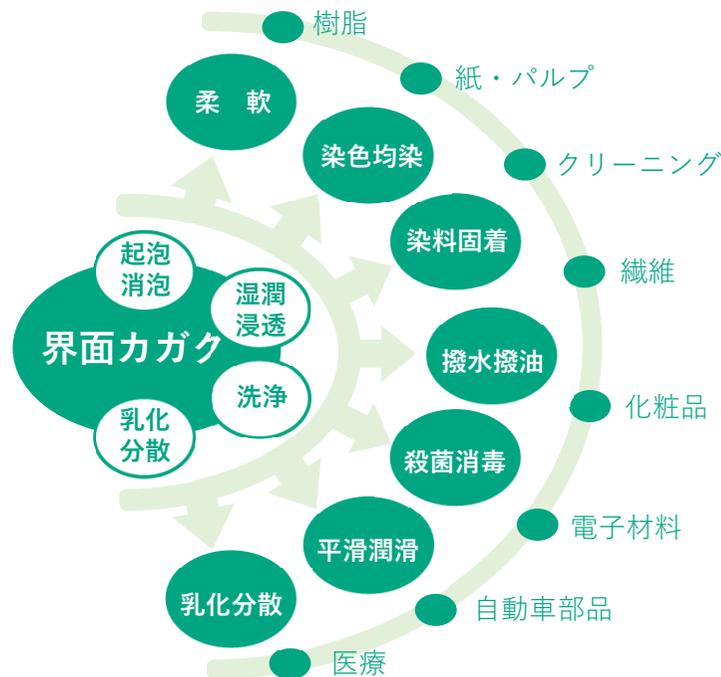
※2 「化学品セグメント」にその他セグメントを含めて表記しております。

2

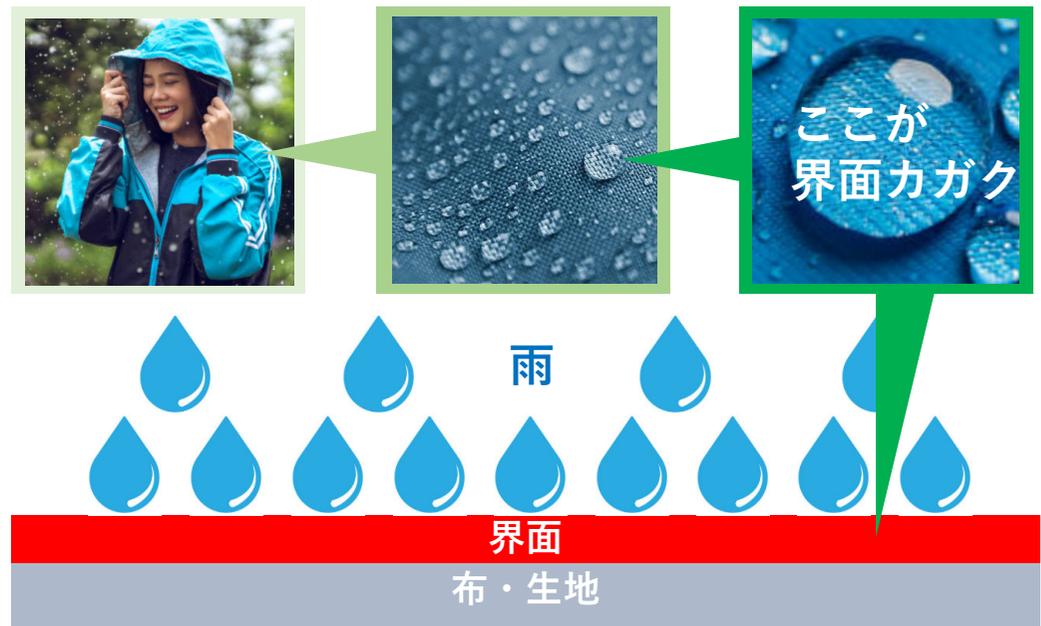
## 事業の特徴・日華化学の強み

## 私たちのくらしに身近な界面カガク

界面カガクとは、科学（サイエンス）と化学（ケミカル）双方からのアプローチで、様々なモノの「境界面や表面」をコントロールする技術

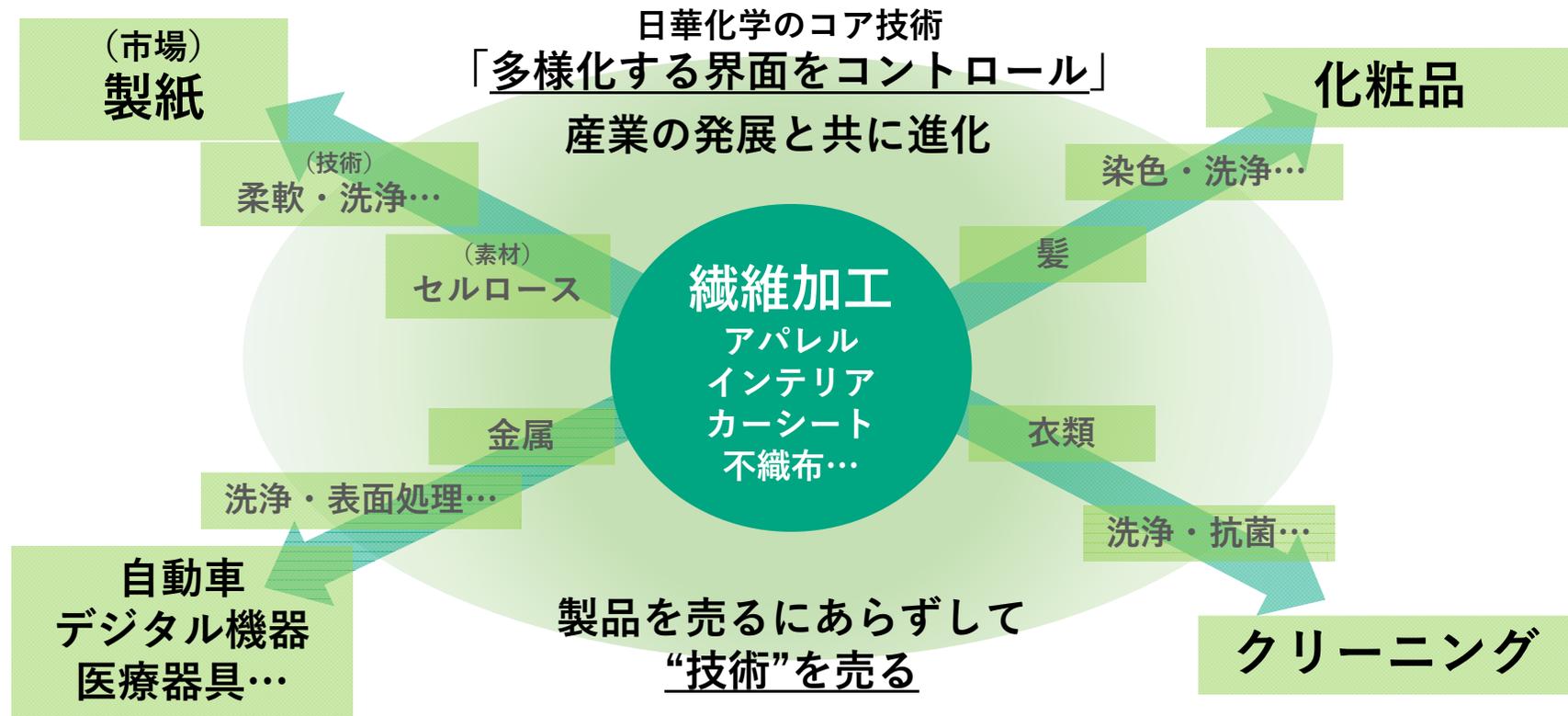


例えば、衣類の撥水に欠かせないのが界面カガクの技術



## 日華化学のコア技術

日華化学のコア技術は、80年以上にわたって繊維産業の中で培われ、様々な産業に領域を広げながら進化してきた



## くらしを支える日華化学の技術

くらしの様々な分野で使用される日華化学の技術は、汎用品では解決が難しいニッチな領域に数多く活かされている

 <p><b>スポーツ アパレル</b> 撥水・吸水速乾</p>	 <p><b>スタイリング</b> 動き・質感</p>	 <p><b>ヘアカラー</b> 発色・ツヤ</p>	 <p><b>シリコン ウェーハ</b> 切削・加工</p>
 <p><b>ファッション インナー</b> 抗菌・抗ウイルス</p>	 <p><b>ヘアケア</b> プロ仕様</p>	 <p><b>スキンケア</b> 保湿・やさしさ</p>	 <p><b>新聞雑誌</b> 脱墨・消泡</p>
 <p><b>インテリア</b> 防汚・防炎</p>	 <p><b>ヘッドキュア</b> 潤い・香り</p>	 <p><b>クリーニング</b> 洗浄・抗菌</p>	 <p><b>デジタル デバイス</b> 潤滑・耐熱</p>
 <p><b>自動車 カーシート</b> 難燃・耐久</p>	 <p><b>パーマ</b> ダメージ軽減</p>	 <p><b>ホテル 病院</b> 清潔・衛生</p>	 <p><b>医療器具</b> 洗浄・消毒</p>

## 事業のメカニズム (例/繊維化学品)

日華化学の技術と経験をベースにしたイノベーションで、お客様から高く支持される画期的な製品が生まれる

### 画期的なシリコン系フッ素フリー系撥水剤「NR-8800」

「2020 R&D 100 Award」受賞<sup>※1</sup>

#### 難易度の高い新たな課題

- 世界の有力アパレルが有害化学物質の使用を制限
- 撥水剤のフッ素フリー化ニーズが高まる
- 生地 of 風合いなど快適性との両立に大きな課題

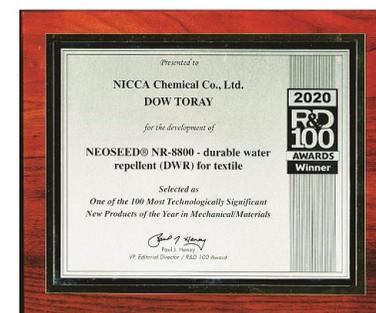
### 『イノベーション』で解決

日華化学は従来課題を解決できる  
シリコン成分を発見

世界的シリコンメーカー・  
ダウ社 (米国) と共同開発

「技術」 × 「パートナー」 × 「人」

国内有力繊維加工メーカーの現場で数百サンプルをテスト  
世界的なアパレル・スポーツ・アウトドアメーカーがフィードバック・採用



※1 R&D 100 Award : 米国「R&D WorldMagazine」主催の、世界的研究機関や企業が開発し過去1年間に実用化された製品・技術の中から最も優れた100件を選出して表彰するもの。2020年度の国内受賞はトヨタ自動車、豊田中央研究所、日立製作所と当社の4社。

## 事業のメカニズム (例/化粧品)

髪の特化専門家である美容師からのフィードバックの蓄積と、科学的な研究から生まれた、「3,000以上のレシピ」が化粧品ビジネスを支える

### 「毛髪科学」により生まれた3,000以上のレシピから画期的商品を企画・開発

- 毛髪・頭皮と共に薬剤や成分についても“科学的に”分析・研究
- 40年に亘り美容師に商品提供し開発にフィードバック
- 3,000以上のレシピから厳選されたものを商品化  
(ヘアケア、パーマ、カラー、スタイリング、育毛、スキンケア等)



### 業界に精通し情報をリードする人材

- 「日本ヘアケアマイスター協会」の学習教材などへの内容協力
- 毛髪・皮膚科学についての講習等、メディア露出多数
- Instagram「DEMI Color Channel」などSNSの積極発信



### “プロフェッショナル向け”レシピをODMにも展開

- ODMニーズのお客様には、“プロフェッショナル向け”のレシピから最適なものを選択し提案
- 少量多品種でも受託可能なフレキシブル自社工場に対応



## 界面カガクの広がる可能性

世の中の大きな変化に伴い、界面カガクによるイノベーションの必要性はますます高まっている

### 世の中の変化

気候変動問題

健康への関心

超スマート社会

### モノづくりの大きな変化

#### 「素材」の進化、多様化

- ・ バイオ素材、リサイクル素材
- ・ 多様化する複合材料



#### 「ケミカル原料」の変化

- ・ 有害化学物質の使用制限・規制
- ・ 世界各国の新規物質規制への対応



#### 「機能」ニーズの高度化

- ・ 加工時の省エネ・脱炭素、節水効果の強化
- ・ ポスト5Gで要求される高周波用低誘電材料など

新たな界面の課題



日華化学の技術と経験

様々な素材や原料を知る

信頼できるパートナー

協働から新しい知恵・技術を生む

諦めない社員

覇気、粘り強さ



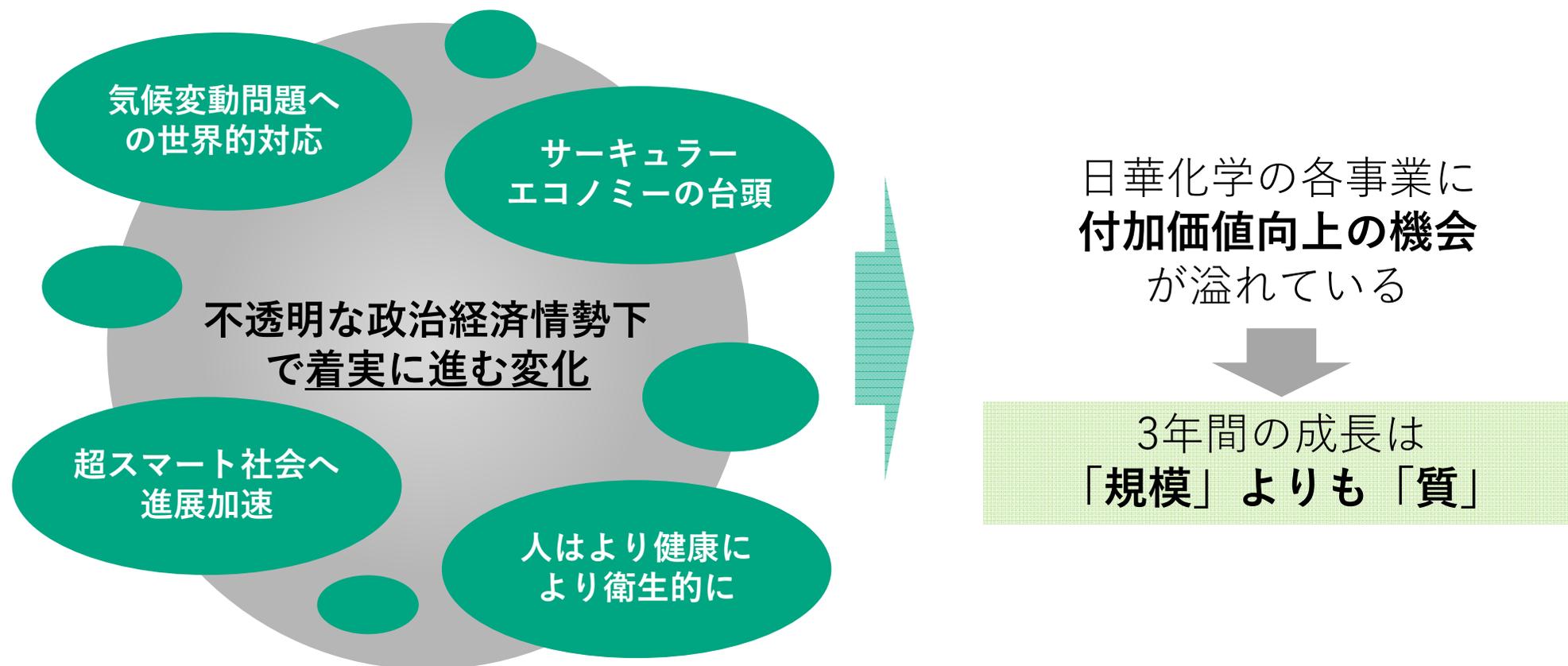
イノベーションのチャンス

3

## 中期経営計画 (目標数値)

## 経営環境認識

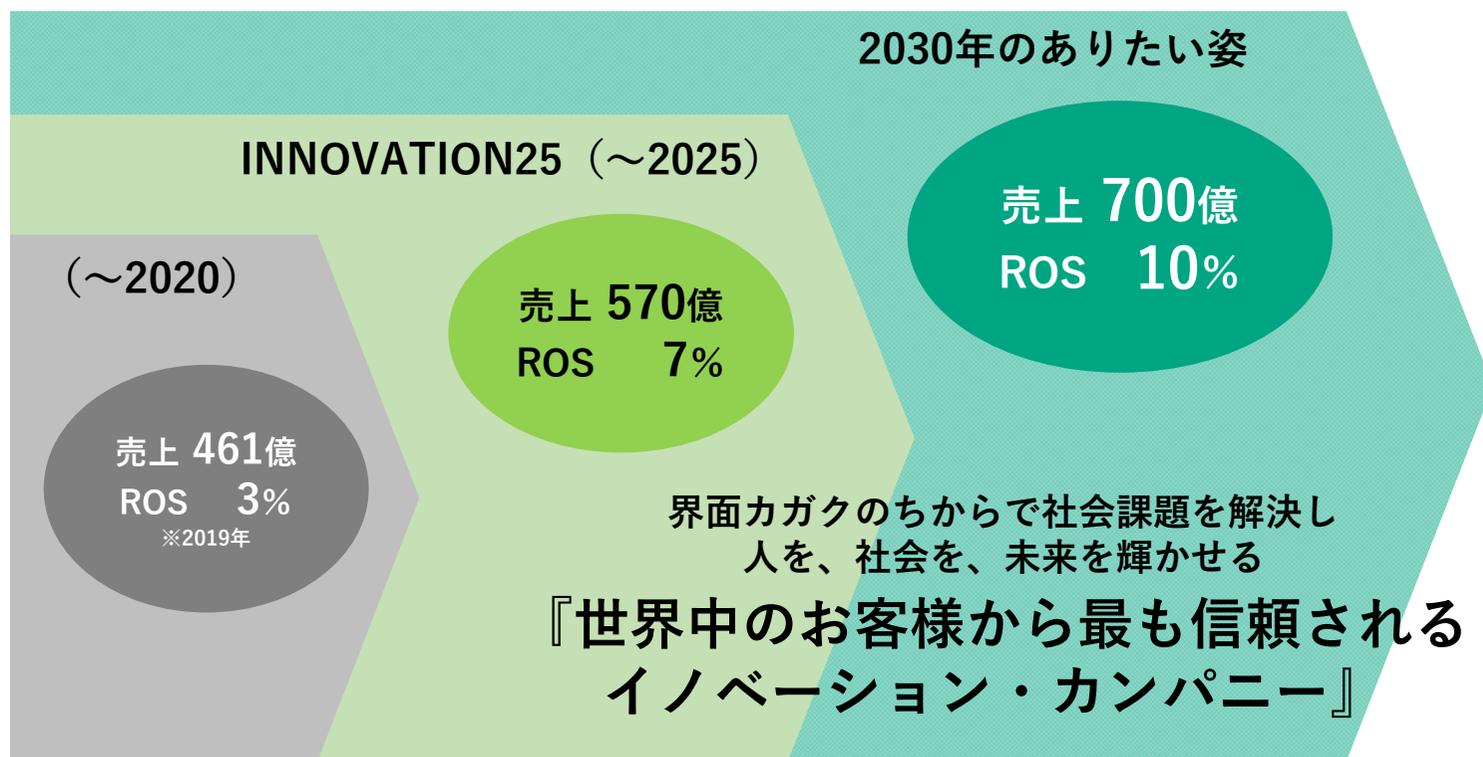
不透明な経営環境が今後も継続する中、「規模」よりも「質」的成長の優先が大きな経営課題となる3年間（2023～2025）と認識



## 中長期成長ビジョン

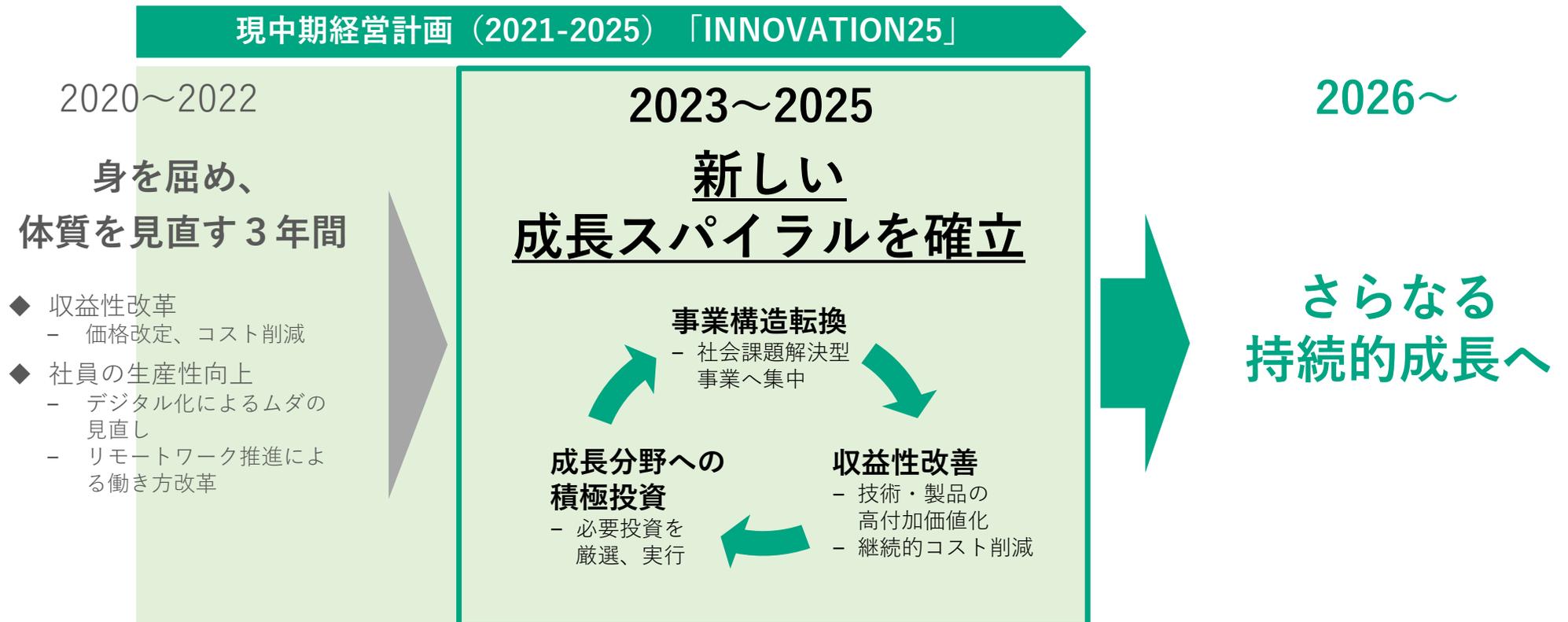
『世界中のお客様から最も信頼されるイノベーション・カンパニー』へ

### 日華化学が中長期的に目指したい姿



## 3か年の成長イメージ (2023~2025年)

「事業構造の転換」「収益性改善」「成長分野への積極投資」を推し進め、  
“新しい成長スパイラル”を固める3か年とする



## 経営目標数値 (2025年度)

### 収益性の向上と成長市場への積極投資をバランス良く実行していく

	2022年実績 <sup>※1,2,3</sup>			2025年計画			
	全社	化学品	化粧品	全社	化学品	化粧品	
① 売上高	506億円	373億円	132億円	570億円	400億円	170億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>全社で世界のGDP成長予測を上回る成長を目指す</li> <li>化学品は「売上（規模）」よりも「利益（質）」での成長を重視</li> </ul>
CAGR <sup>※4</sup>	3.1%	2.4%	5.2%	4.0%	2.3%	8.6%	
② 営業利益	26億円	9億円	17億円	40億円	20億円	20億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>中長期目標として2030年全社ROSを10%以上へ</li> <li>化学品は高付加価値事業シフトで収益性を改善</li> <li>化粧品は成長のための積極投資で一旦ROS低下</li> </ul>
ROS	5.2%	2.4%	12.9%	7.0%	5.0%	11.8%	
③ ROE <sup>※5</sup>	6.4% (8.0%)	—	—	8.0%	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>中長期目標として2030年ROE10%を目指す</li> </ul>
④ ROIC <sup>※6</sup>	4.6%	2.0%	15.3%	7.0%	5.0%	12.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>WACCを安定的に大きく上回るレベルを目標とする</li> </ul>
想定条件 為替/ナフサ	132円/USD (2022年12月末) 72,500円/KL (2022年4Q平均)			132円/USD 72,500円/KL			<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年12月末の為替、2022年4Q平均のナフサ価格を計画の前提とした</li> </ul>

※1 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を2022年12月期から適用しております。

※2 「化学品セグメント」にその他セグメントを含めて表記しております。

※3 「消去及び全社セグメント」は化学品・化粧品の各セグメントに配賦して表記しております。

※4 CAGRは3年間の売上高平均成長率を示しております。

※5 ROEは特別損益など特別な要因を除いた当社試算値を表示しております。

※6 ROICは運転資金及び固定資産等の情報を元に当社試算値を表示しております。

4

**中期経営計画  
(全社基本戦略)**

## 全社基本戦略

5大戦略は大きく変更しない、「事業構造の大転換」「メリハリのある投資」「生産性向上」を加速させることが数値目標達成の鍵

### ■ INNOVATION25 「5大戦略」

1. 事業構造の大転換
2. メリハリのある投資
3. 生産性改革
4. サステナブル経営の推進
5. 大家族主義の進化

## 全社基本戦略 1. 事業構造の大転換

大きな社会課題である「E/環境」「H/健康・衛生」「D/先端材料」領域に事業を集中させる「EHDシフト」を推進

◎/今後特に注力 ○/注力

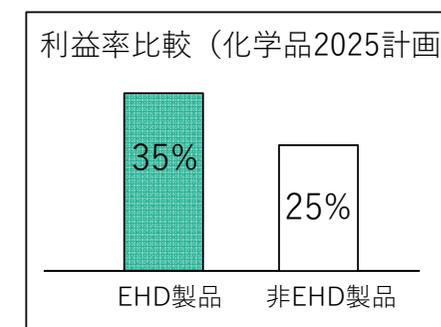
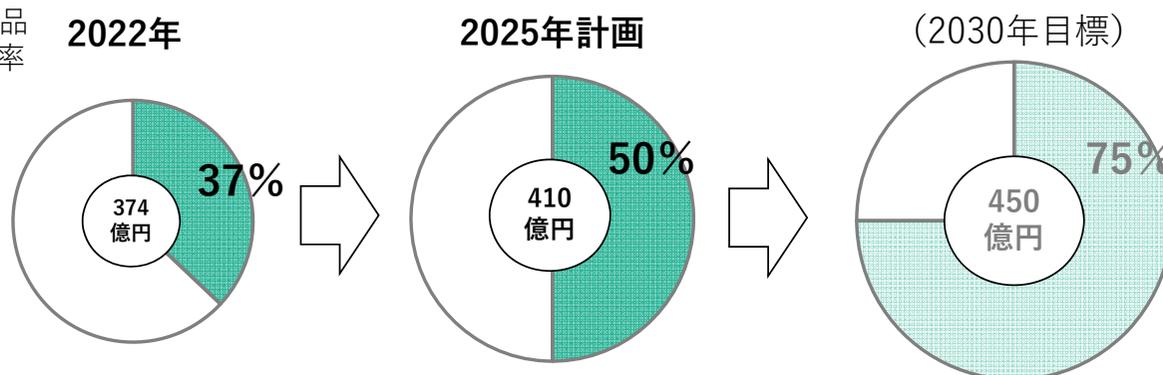
日華化学が注力するEHD領域		化粧品事業	化学品事業		
			繊維化学品	クリーニング & メディカル	スペシャリティケミカル
環境 Environment	お客様の生産工程の環境を改善（省エネ・節水、脱炭素、環境改善、廃棄物削減など）	—	◎ 薬剤による工程短縮、節水ほか	○ 薬剤による工程短縮、節水ほか	◎ 半導体ウエハ加工 ケラント剤回収・リサイクル
	環境負荷の小さい原料や容器へ切替	◎ 植物由来原料や環境に優しい容器	◎ バイオ由来原料やリサイクル原料	○ バイオ由来原料やリサイクル原料	◎ 溶剤系→水系化
健康・衛生 Health	人を健康にする・キレイにする	◎ 毛髪・頭皮をより健やかに、キレイに	○ スポーツウェアなどの機能を進化	○ 健康で清潔な暮らしへ	—
	衛生管理、抗菌・抗ウイルスなど	○ 手指洗浄剤	◎ アパレル・インテリアなどの抗菌・抗ウイルス	◎ 薬剤による感染制御	—
先端材料 Digital	次世代通信やナノテクノロジーを支える新たな界面課題に対応	—	—	—	◎ 高周波用低誘電材料など
	お客様の生産現場のデジタル化を促進	—	—	◎ 薬剤管理供給システムの提案	—

## 全社基本戦略 1. 事業構造の大転換

特に、化学品事業はEHD比率の向上余地が大きく、比率が高まれば化学品全体の収益性も高まる

### 化学品事業

EHD製品  
売上比率



### 化粧品事業

- 毛髪・頭皮のプロの意見と「毛髪科学」を出発点とした**製品の多くが、「毛髪や頭皮を健やかにする研究」**からつくられている
- 「より健康を意識した新製品開発」や「パッケージのサステナブル化」を通じて更にE/H領域で深化

## 全社基本戦略 1. 事業構造の大転換

### EHDシフトは大きく2つの基本方針で推進。グループの収益性の底上げを図る

#### 事業構造の大転換の基本方針

1 化粧品事業に積極投資、事業拡大を加速



2 化学品事業はEHD領域にフォーカス、売上規模より収益性改善を優先

#### 中長期的（2030年）な事業構造イメージ

- ◆ 化粧品の売上構成が増え、全社の営業利益成長を下支え
- ◆ 化学品の収益性が大きく改善され、全社の収益性を引き上げ

		連結	化学品	化粧品
売上 (構成比)	22年	506億円	374億円 (74%)	133億円 (26%)
	30年	700億円	450億円 (64%)	250億円 (36%)
営業利益 [ROS] (構成比)	22年	27億円	9億円 [2%] (33%)	17億円 [13%] (67%)
	30年	70億円	35億円 [8%] (50%)	35億円 [14%] (50%)

## 全社基本戦略 1. 事業構造の大転換（化粧品事業）

市場の大きな構造変化に商機。強みである商品企画・開発力に加え、従来行ってこなかったマーケティング・プロモーションの本格展開でシェア拡大

### 化粧品事業の3か年の成長計画サマリー

#### 〈事業環境〉

##### ◆ 市場構造の大きな変化に商機

- 消費者の“セルフ・ヘアケア”意識の高まり  
→ 高価格帯ヘアケア市場が成長
- 商品企画力とマーケティング力の高い新興ブランドが台頭、大手のシェアを奪う

#### 〈日華化学の強み〉

- ◆ 「毛髪科学」×「美容師からのフィードバック」による画期的な商品企画・開発力

#### 〈23 -25年事業戦略概要〉

##### ◆ 大型ブランドの新発売・リニューアル

- 画期的なスカルプケア新ブランド
- ヘアカラーブランドのフルリニューアル

##### ◆ マーケティング、プロモーション本格展開

- メディア広告掲載、デジタルコミュニケーション
- ブランド認知とサロンへの顧客誘引を強化

##### ◆ ODM事業の拡大

- 新興ブランドのODMニーズを積極的に獲得

##### ◆ 新工場稼働へ向けた本格検討開始

- 飛躍的な生産性的向上と事業拡大に対応できる新しいコンセプトの工場（2026年以降の本格稼働を予定）

## 全社基本戦略 1. 事業構造の大転換 (化粧品事業)

### DEMI DO(デミ ドゥ) 2023年4月発売予定

# DEMI



一生、  
この髪とあそぼう。  
SMART SCALP CARE

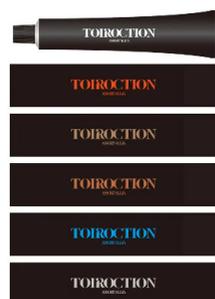
# DEMI DO

- ひとりひとりの頭皮と髪のパフォーマンスを最大限に引き出すスカルプケアブランド
- 毛髪科学技術への自信、スカルプケア概念を払拭するべく、初めての「デミ」ブランド名

### TOIROCTION(トイロクション) 2023年6月発売予定

十人十色。自分のカラーで。  
**TOIROCTION**  
ASSORT ALLIA

「トイロクション」  
商品イメージ



現行キャップ

新形状小型キャップ

- ヘアカラー総合ブランド「アソートアリアC」がブランド名も新たにフルリニューアル
- プラスチック量を約55%削減した新形状の小型キャップを採用

## 全社基本戦略 1. 事業構造の大転換（化粧品事業）

福井工場竣工から40年が経過、事業成長と共に歩んできたモノづくりの土台を大きく進化させるための本格検討を開始

### 本格検討開始

## 化粧品新工場

これまでの生産のあり方、工場のあり方を根本的に見直した、新しいコンセプトの工場へ

- 小ロット × 多バッチ生産からの脱却
- 人に依存したマンパワーからの脱却
- 設備機器の制約を取り払う
- 稼働時間の制約を取り払う
- ムダな作業を排除する など…

### スマートファクトリー構想

- 機械化・自動化・省人化・省エネ
- 環境対応（CO2排出量削減、排水量削減）
- 充填・包装の自動化
- 原料・資材搬入の自動化 など…

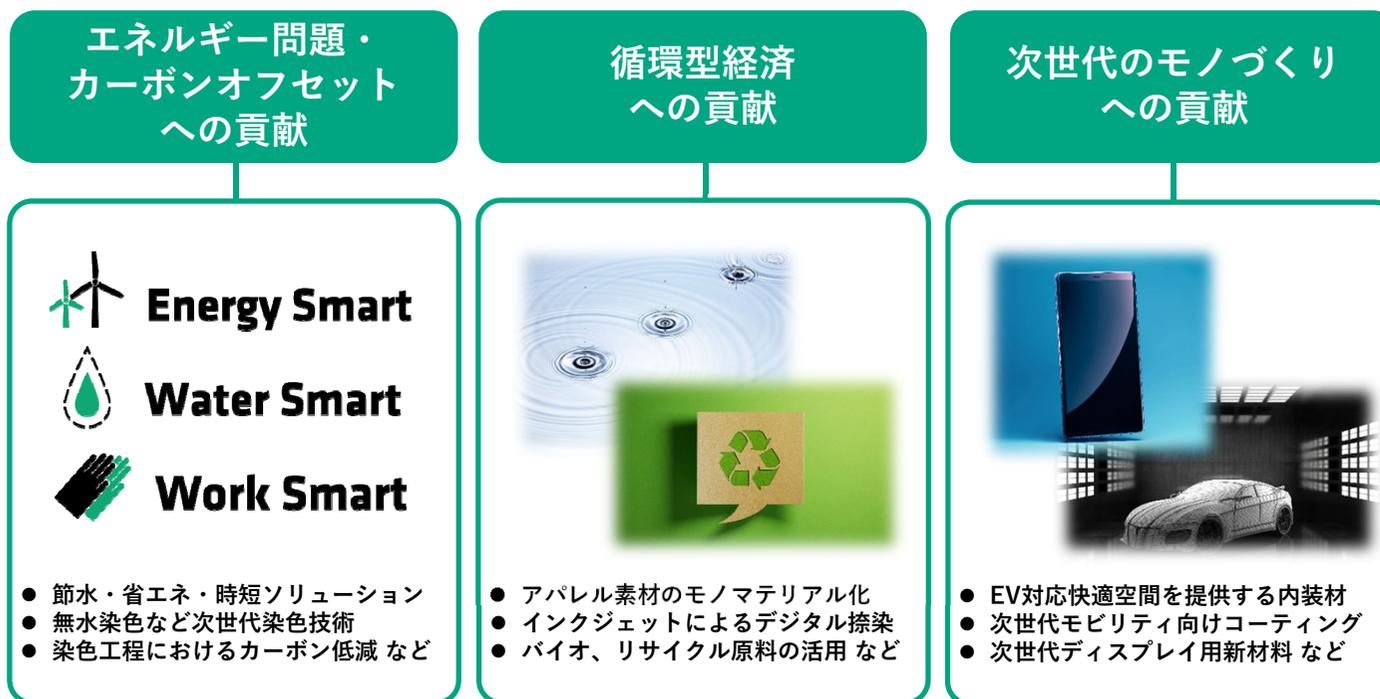
※イメージ



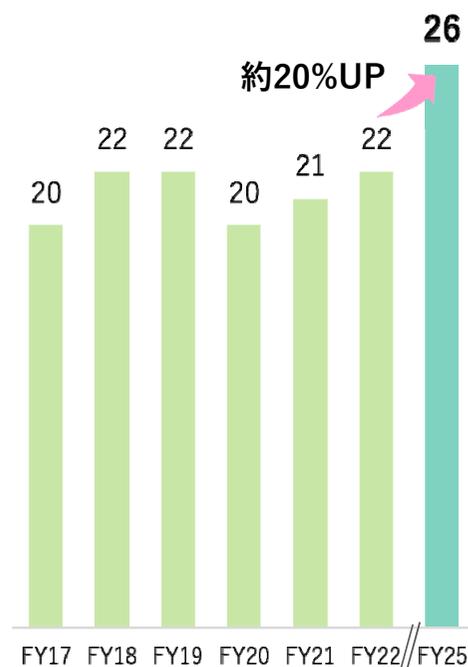
## 全社基本戦略 1. 事業構造の大転換 (化学品事業)

### 研究開発は、EHD関連テーマへの集中に加え、循環型経済や次世代のモノづくりに貢献する領域に注力

3か年 (2023 - 2025) の注カイノベーションテーマ例



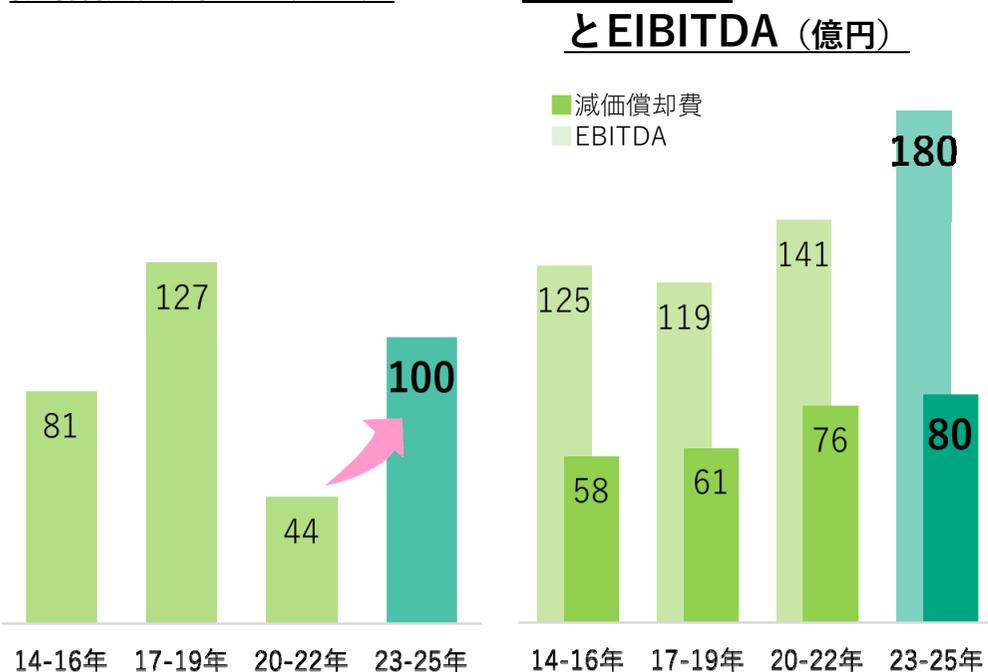
研究開発費 (億円)



## 全社基本戦略 2.メリハリのある投資

### 投資効率の高いものを厳選しメリハリをつけた投資を行う

設備投資等※1 (億円)



※1 2023-2025年計画には従来無かったマーケティングなどの大型経費も含めて表示しております。

### 3年間 (2023~2025年) の投資方針

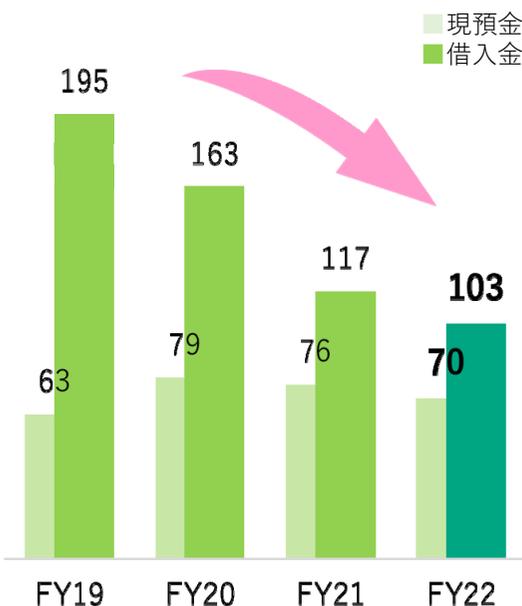
- ◆ EHDシフトと効率化の投資に集中
- ◆ ROICで事業毎の投資効率を管理

	3年間の主な投資計画	ROIC目標(25年)
化粧品	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期成長を見据えた製造機能拡充</li> <li>積極的なマーケティング など</li> </ul>	12.0% 積極投資等により 短期間では減少
化学品	<ul style="list-style-type: none"> <li>EHD関連事業成長のための増産投資や研究開発投資</li> <li>DXなど生産性向上投資 など</li> </ul>	5.0% 投資の厳選と利益率 向上により増加
全社	<ul style="list-style-type: none"> <li>新人事システム導入 など</li> </ul>	7.0%以上 WACC以上

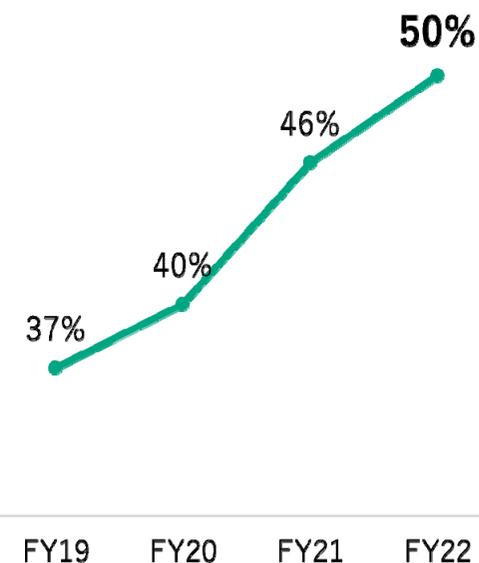
## 全社基本戦略 2.メリハリのある投資

足元の財務体質は飛躍的に改善。今中計期間内の投資は営業CF内で行い  
DEレシオを意識したバランスの良い財務体質を目指す

現預金と借入金の推移 (億円)



自己資本比率の推移



### 戦略的投資期間 (2017年~2019年) の借入金を約半減

- NICCA INNOVATION CENTER や鹿島工場増設、韓国化学品工場等の大型投資を一段落
- コロナ禍においても事業成長を達成できたことに加えて、コストダウンや投資抑制も奏功
- 今後の投資は基本的に営業CFにより実行しつつ、DEレシオを意識したバランスの良い財務体質へ

## 全社基本戦略 3.生産性改革

積極的なDXの推進により効率アップ&PH向上を図ると共に  
様々なデータを分析・活用することにより新たな価値創出につなげる

### DX導入事例

#### 【働き方改革／リモート活用】

- Teams・Zoomなどの活用
- 全社員へのSurface導入、Office365機能拡張
- 新HRシステム導入準備中

#### 【生産効率化／自動化】

- 計量システム、電子SOP、MESなど製造現場のデジタル化
- ロボットアーム、半自動包装設備など自動化設備の導入

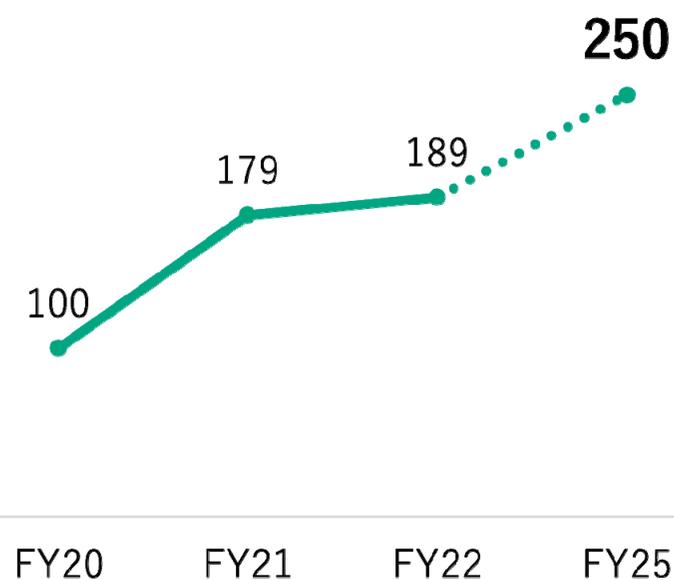
#### 【研究開発活動の可視化／人財育成】

- 研究基幹システムを刷新し高度化
- 電子実験ノート、タレントマネジメントシステム導入

#### 【データ活用／分析高度化】

- BIツールの全社展開
- 営業管理システムの導入

### PH営業利益（2020年を100とした場合）



## 全社基本戦略 4.サステナブル経営の推進

### 2030年までにグループ全体のCO2実質排出量を2018年比 30%削減へ

#### マテリアリティ (重要課題)

##### 環境

地球環境を  
もっときれいに

- グループ全体のCO2実質排出量削減
- EHD事業による社会課題を解決する事業活動
- 仕事を通じた社会貢献活動の推進 など

##### くらし

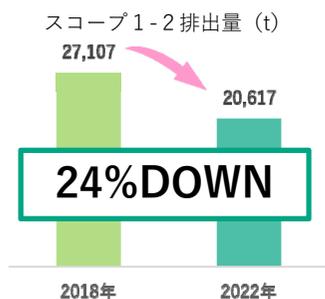
人々のくらし  
と生活を快適に

##### 社会

社会を  
より豊かに



#### CO2排出量削減への貢献



- 2021年7月、福井県内事業所で **水力電源100%**の電力利用に全量切り替え
- 石油由来から **植物由来原料**へのシフト

#### コロナ禍における修学旅行の受け入れ



- 福井県内の中学生が **修学旅行**の一環で「NICCA イノベーションセンター」を訪問
- 社員とのコミュニケーションやオリジナルシャンプーづくりなど楽しさを体験

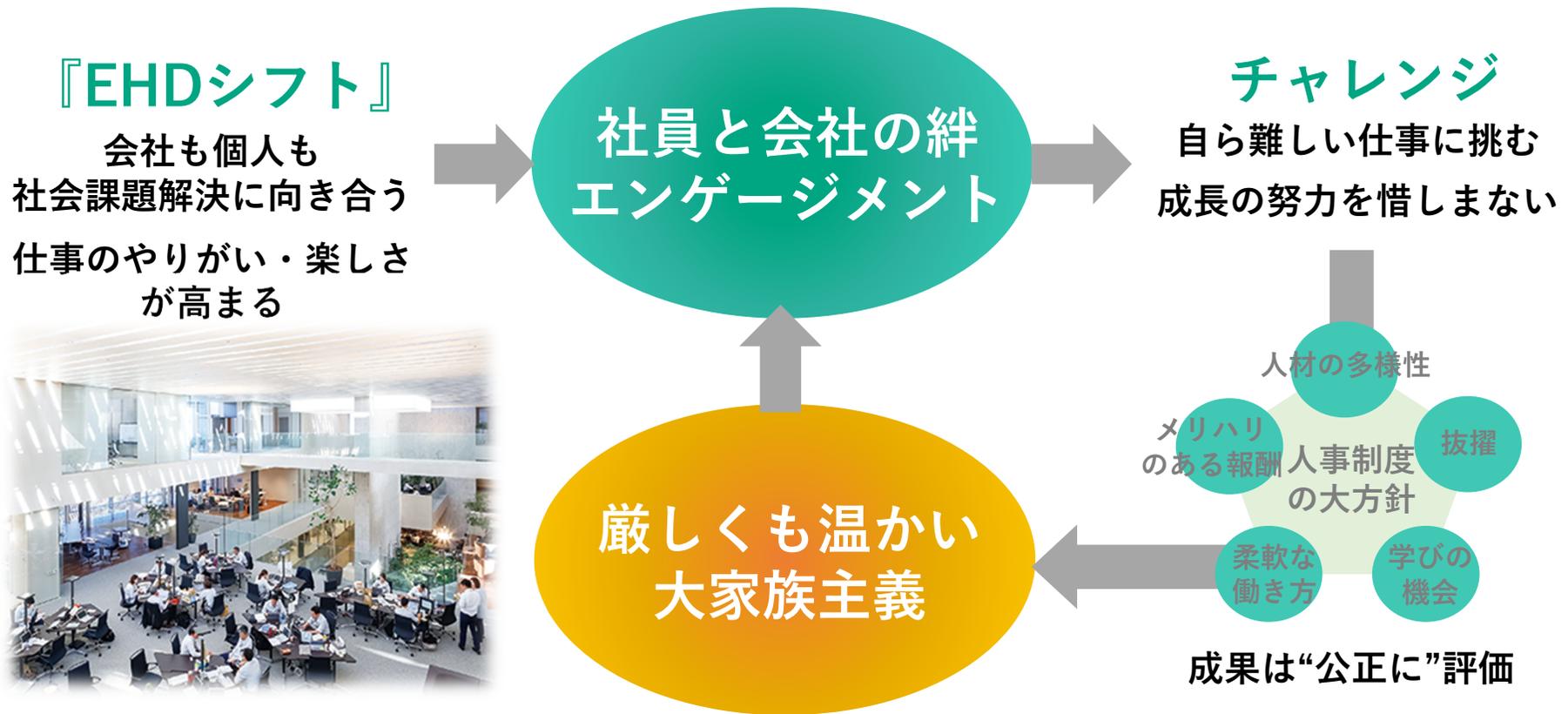
#### イーラル株式会社による奨学金制度



- 美容師を目指す美容学校の生徒を対象とした **独自の奨学金制度**を設立
- 少子化や働き方改革による美容業界の課題解決を目指し、学生をバックアップ

## 全社基本戦略 5.大家族主義の進化

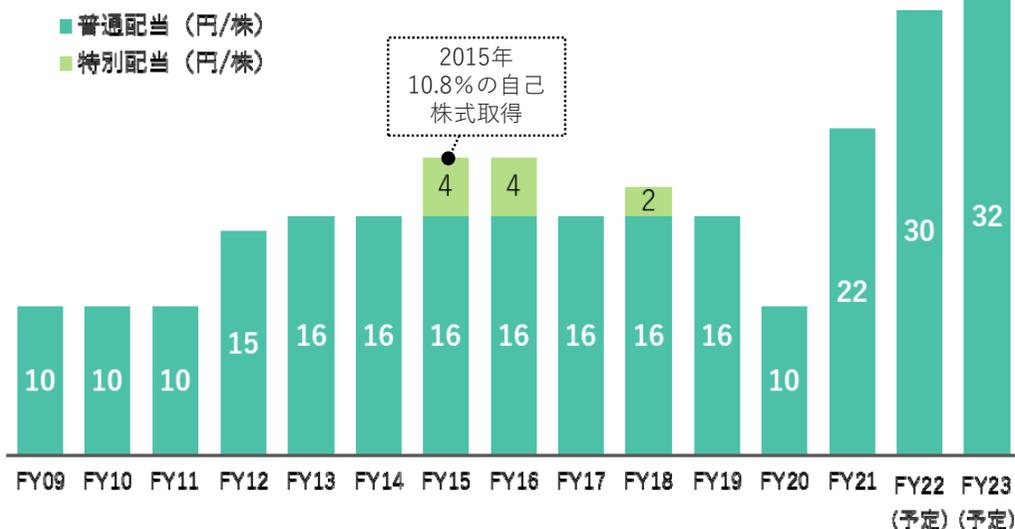
EHDシフトが起爆剤となって、成長努力を惜しまずチャレンジする人材が集い、持てる力を最大限発揮できるように大家族主義を進化させる



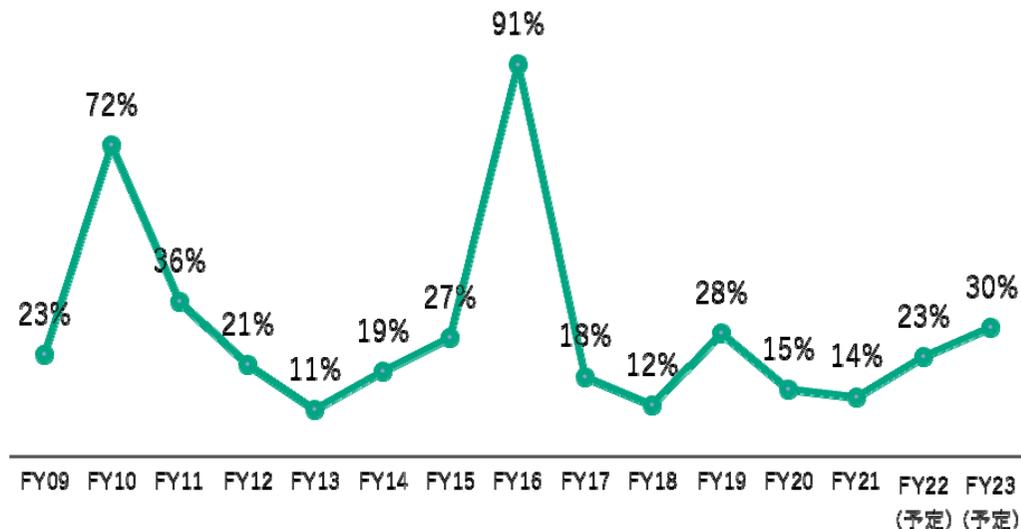
## 株主還元方針

- 当社は、株主の皆様に対し**安定的な配当**を継続して実施するとともに、各期の業績と将来の成長のために必要な投資や今後の事業展開等を総合的に勘案し、剰余金の配当を決定しております。また、将来的な利益水準に対して**配当性向30%を目安**として拡充していく方針であります。
- 今後も、「株主の皆様への利益還元」「財務体質の強化」「収益力向上を目指した資本の有効かつ戦略的な活用」のバランスを取りながら、その一層の充実に努めてまいります。

### 一株あたり配当金の推移



### 連結配当性向の推移



輝け、カガクで。

# Activate Your Life

## 日華化学のパーパス

中期経営計画のスタートにあたり、この先20年、30年という長期スパンで日華化学が何を目指していくのかを「日華化学のパーパス」として決めました。「Activate Your Life」とは、ステークホルダーとともに、無限に広がる界面カガクのチカラで様々な社会課題を解決し、より豊かな暮らしや輝く未来に貢献することです。

具体的には、社会が直面する環境リスクから人々を守る、健康で笑顔あふれる未来社会を創る、急速に進むナノ化・デジタル化への新技術で社会に貢献する、といった価値を提供していきます。この「日華化学のパーパス」を経営の根幹に置き、私たち社員一人ひとりが社会や未来を輝かせる力を育むことで、持続的な成長をめざしていきます。

5

## アペンディクス

## 事業内容（化学品）

創業以来培った繊維加工のトータルソリューション技術を幅広い市場に応用  
2015年に大智化学産業を買収し、成長著しいデジタル分野にも展開

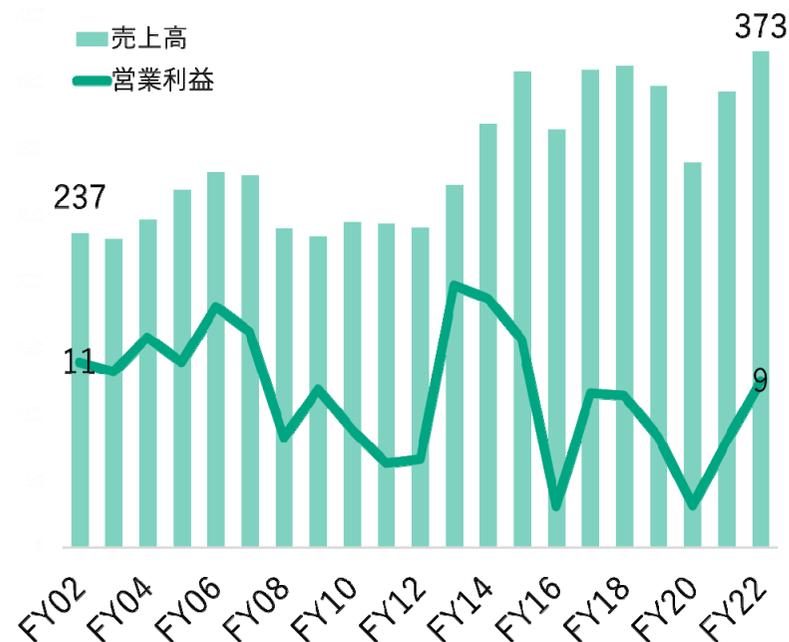
### 化学品事業



#### 主要な関係会社

- ・大智化学産業株式会社（半導体産業向け）
- ・日華化学（中国）有限公司
- ・NICCA KOREA CO., LTD. 他13社

### 業績推移※1,2,3（億円）



※1 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を2022年12月期から適用しております。  
※2 「化学品セグメント」にその他セグメントを含めて表記しております。  
※3 「消去及び全社セグメント」は化学品・化粧品各セグメントに配賦して表記しております。

## 事業内容（化学品）

### 化学品部門の3つの事業部

#### 繊維化学品事業部



繊維加工用薬剤  
（精練剤、染色助剤他）  
機能加工用薬剤  
（撥水、難燃、抗菌他）  
合皮・人皮用薬剤  
（ウレタン系コーティング剤）

#### スペシャリティケミカル事業部



紙・パルプ用薬剤  
（脱墨剤、柔軟剤、顕色剤他）  
金属・ゴム加工用薬剤  
（洗浄剤、離型剤他）  
機能性中間体・モノマー  
（アルキレンオキサイド付加体他）  
機能ポリマー  
（水系ウレタン樹脂、フッ素樹脂他）  
半導体生産工程用薬剤  
（クラーント剤他大智化学関連製品）

#### クリーニング&メディカル事業部



ホーム&リネン用薬剤  
（洗浄剤、柔軟剤他）  
医療機器用薬剤  
（洗浄剤、消毒剤他）  
環境衛生用薬剤  
（手指消毒剤、抗菌・抗ウイルス剤他）  
体外検査・診断用薬剤  
（体外遺伝子検査、人工核酸他）

## 事業内容（化粧品）

主力ブランド「DEMI」を中心としたプロフェッショナル向け美容室専売品  
お客様の声に耳を傾け、髪健康と美しさをテーマに研究開発

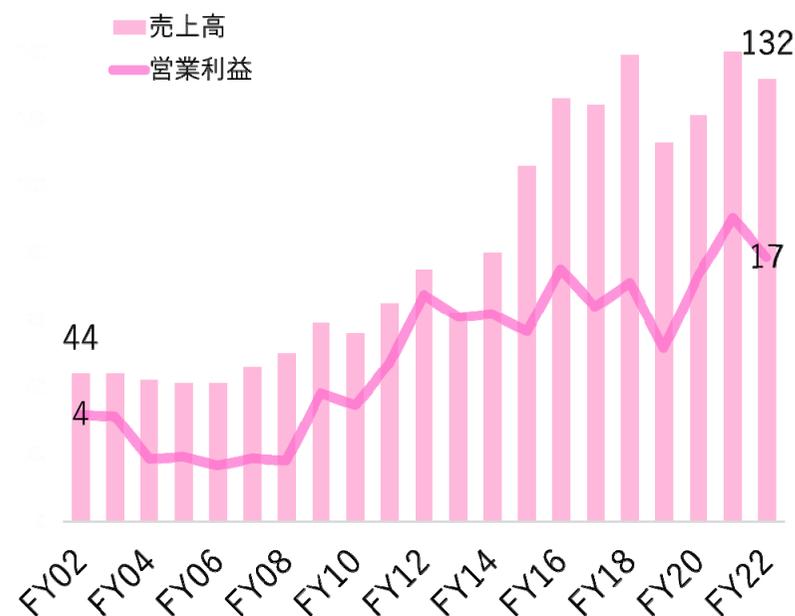
### 化粧品事業



### 主要な関係会社

- ・山田製薬株式会社（化粧品OEM/ODM）
- ・イーラル株式会社
- ・DEMI KOREA CO., LTD. 他4拠点

### 業績推移※1,2,3（億円）



※1 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を2022年12月期から適用しております。

※2 「化学品セグメント」にその他セグメントを含めて表記しております。

※3 「消去及び全社セグメント」は化学品・化粧品の各セグメントに配賦して表記しております。

# 暮らしを支える日華化学の技術



世界のアパレルが求める  
環境配慮型撥水加工



汗を吸収、スグ乾く、  
スポーツウェアの吸汗速乾加工



雑誌・新聞紙のリサイクル  
に不可欠なインクを  
取り除く脱墨加工



衛生的な生活の必需品、  
ハンドソープなど  
手指消毒製品



半導体シリコンウエハ  
ー加工に使われる  
各種加工薬剤



環境に配慮した  
人工皮革加工



汗の菌の繁殖を抑える  
ニオイや肌着の  
抗ウイルス・抗菌消臭加工



航空券や乗車券など様々な  
チケット類の感熱紙



手術中に活躍する  
医療用器具等の洗浄



デジタルデバイスや半導  
体に使われる先端材料



カーシートの難燃加工、  
日焼け・色あせ防止加工



クリーニング店向けの  
洗剤・撥水剤など



環境配慮型の  
車両用低温洗浄剤



美容室で使われる  
プロ使用のヘアケア製品



美容室で使われる  
プロ使用のヘアカラー製品



カーテンやカーペットの  
難燃・防汚加工



ホテルや病院の  
リネン洗浄など



新幹線に使われる汚れが  
落ちやすく環境にやさしい  
メンテナンス洗浄剤



美容室で人気の  
キューブ型スタイリング剤

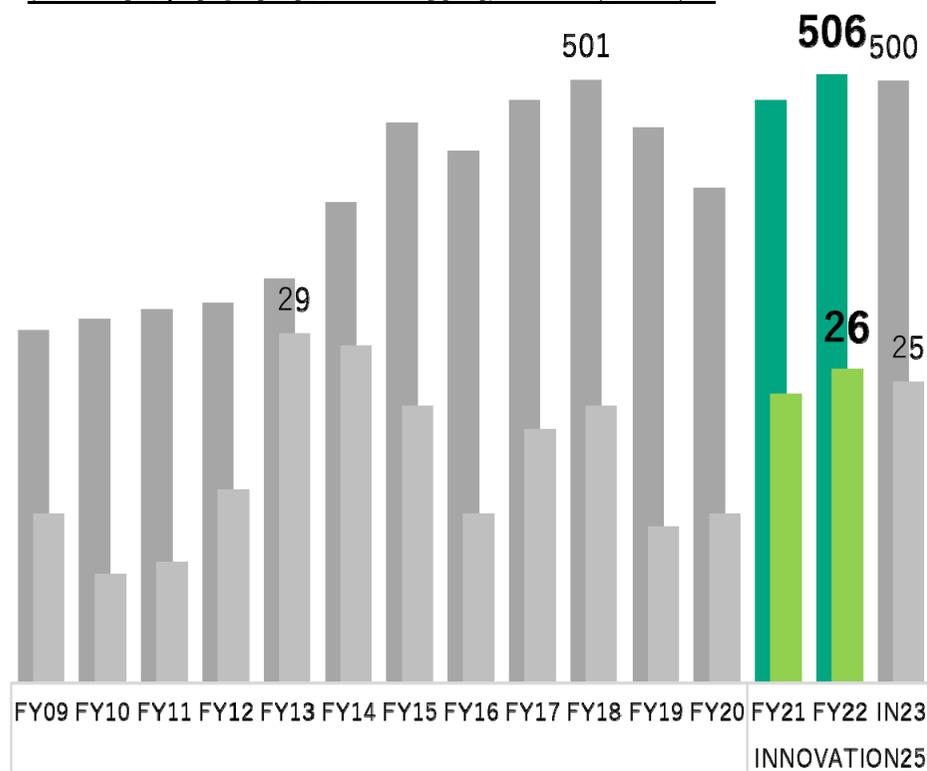


美容室・サロンでの  
ヘッドスパ用シャンプー  
やオイルなど

## 足元2年間の振り返り (2020年～2021年)

### 2023年度経営目標の売上高・営業利益を前倒しで達成

#### 売上高/営業利益の推移※1 (億円)

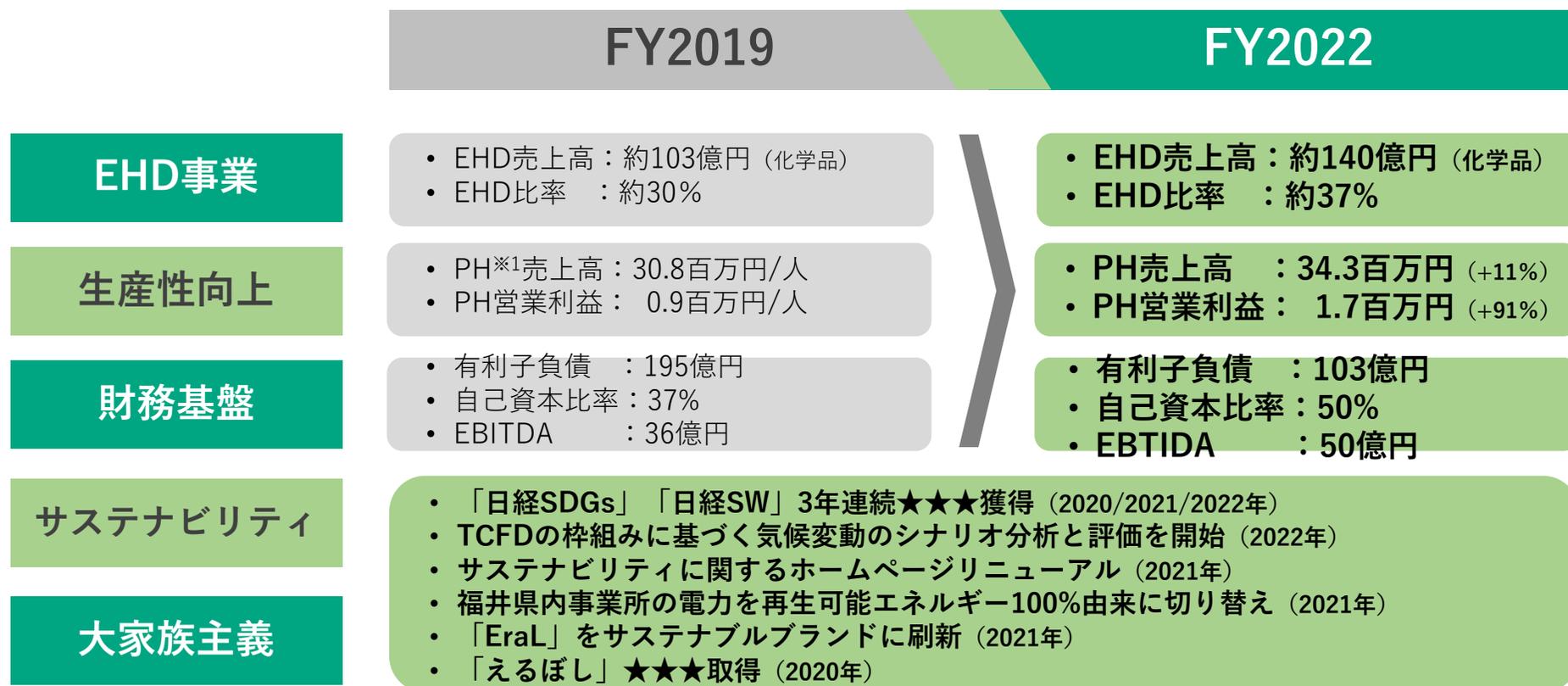


- 世界中で**コロナ禍が深刻化**しロックダウンが進行。先行きが読めない経営環境下で、2021年～2025年の5か年中期経営計画を策定
- 2021年・2022年共に**増収増益**を果たし着実に業績向上を達成
- コストダウンの徹底や設備投資の縮小など我慢の2年間となったが、活動の効率化やリモートの活用は**働き方改革**にも寄与
- また、**原材料及び物流費の高騰**が続く中で価格改定や新市場の開拓により事業価値を高める活動を実施

※1 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年12月期から適用しております。

## 足元2年間の振り返り (Before Coronaとの比較)

5大戦略に紐づく取り組みとKPIが大きく向上、特に財務体質が飛躍的に改善



※1 PH：一人当たり（per head）

## 中期経営計画の前提となる主な事業環境シナリオ

### 今後3年間の市場動向からも、量より質を追求した経営へのシフトが課題に

為替	1ドル=132円	2022年期末レート程度
ナフサ価格	72,500円/KL	2022年4Q程度
主な事業環境	化学品	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界経済の本格回復は24年半ば以降（ウクライナ侵攻の長期化、予想を上回るインフレ、急激な金利上昇、米中関係緊張による台湾有事リスク、中国の新型コロナ感染終息見通しの不透明さ、など）</li> <li>世界の Apparel 向け繊維加工は、欧米の景気後退により回復は24年半ば以降になる。加えて、生産のリーン化、循環型消費への切替が進むことで、量的拡大ではなく、環境や健康を意識した製品へと中身の変化が進む</li> <li>世界の自動車生産は、半導体供給状況改善もありコロナ前水準への回復に向かうが、完全回復は世界の景気後退により遅れる。24年半ば以降本格回復するも次第に台数による成長は鈍化する</li> <li>国内クリーニング市場は、新型コロナの5類移行を機に23年以降徐々に回復するが、在宅勤務などの定着もあってホーム向け市場は元には戻らない。一方、リネン向けはインバウンド回復とともに安定成長傾向に戻る</li> <li>半導体は、供給能力不足解消のための積極投資がグローバルで進む。一時的な成長率鈍化予測はあるものの中長期的には成長市場であり、24年以降は景気回復も伴って市場全体が力強く成長していく</li> </ul>
	化粧品	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内美容室市場は、23年以降も引き続きコロナ渦からの回復による微増傾向が続くとみている（利用控えの継続や利用頻度減などにより、コロナ前への回復には23年以降も暫く時間を要する）。加えて、構造的な人口減少により、一旦回復するも中長期的には微減傾向に転じる</li> <li>一方で、環境問題への関心や健康意識の高まりなどから、消費者行動に顕著な変化が起きており、プロフェッショナル向けの高付加価値なヘアケア剤への需要は今後も増えて行く</li> </ul>

## 全社基本戦略 1.事業構造の大転換（化学品事業）

化学品では、それぞれの事業に強みを活かせる「EHDの大きな商機」があり、リソースを集中して取り組む

	主なEHDの商機（事業環境変化）	日華化学の強み	主なEHDフォーカス事例
繊維化学品	<ul style="list-style-type: none"> <li>染色加工場がサステナビリティ要求に積極対応</li> <li>繊維加工におけるフッ素フリー化</li> <li>自動車内装の色の高明度化・高品位化、脱溶剤化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな界面課題に対応できる技術、処方提案力</li> <li>有力なアパレルメーカーや染色加工場、自動車シート素材メーカーとの信頼関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3つの「E」領域にフォーカス                             <ul style="list-style-type: none"> <li>「フッ素フリー系撥水剤」</li> <li>「染色工場環境負荷低減処方提案プログラム（SMART DYEING PROCESS）」</li> <li>「水系ウレタン樹脂」</li> </ul> </li> <li>繊維化学品の売上及び利益増加分（22年→25年）の多くを占める計画</li> </ul>
クリーニング & メディカル	<ul style="list-style-type: none"> <li>厳しい市場環境の継続を見越し、クリーニング各社がサステナビリティ経営を強化</li> <li>コスト低減に積極的</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内クリーニング用薬剤市場でシェア1位の信頼力。工場の中を良く知る</li> <li>江守エンジニアリング（子会社）との協働によるシステム提案力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>クリーニング工場の自動化システムの提案販売</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>薬剤のモノ売りからコト売り（自動投入、遠隔監視・操作）へ付加価値向上、収益性改善</li> <li>顧客のサステナビリティ経営（省エネ・省資材・省人化）に貢献</li> </ul> </li> </ul>
スペシャリティケミカル	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体加工メーカー各社がサステナビリティ経営を強化</li> <li>光学材料の高機能化要請、5G低誘電素材ニーズの高まり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大手半導体向けシリコンウェーハ加工メーカーとの長年の信頼関係</li> <li>韓国はじめアジア各国に製造～販売の活動拠点を保有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>シリコンウェーハ切削用クーラント剤の回収・リサイクルビジネスモデル</b>の提案・提供                             <ul style="list-style-type: none"> <li>モノ売りからコト売りへ付加価値向上</li> <li>顧客のサステナビリティ経営に貢献</li> </ul> </li> <li>化学品の収益の柱の一つに</li> </ul>

## 全社基本戦略 1.事業構造の大転換 (例／繊維加工用薬剤)

# 収益性が高くシェア拡大余地の大きい3つの「E／環境」領域の製品に大きく傾注

染色工程  
環境負荷低減  
処方



染色加工場の環境負荷低減のための複合処方提案プログラム

### 【染色節水・工程合理化処方】

- ✓ 工程合理化を通じてお客様の生産性向上、CO2削減、品位向上を提案

### 【バイオ・リサイクル原料搭載製品】

- ✓ お客様のCO2削減を提案。併せてbluesign等の環境認証製品として登録

### 【次世代染色処方対応薬剤・処方の提案】

- ✓ 染料や染色設備、繊維素材の進化に合わせた薬剤の開発で、最先端技術の開発で社会に貢献

### 【規制物質を含まない薬剤の開発】

- ✓ お客様、社会に安心・安全且つ持続可能な化学品をお届け

省エネ・節水、脱炭素などの環境問題対応を迫られる世界中の有力染色加工場でニーズが高まり、提案機会が増加

フッ素  
フリー系  
撥水剤



繊維製品におけるF素化学品規制に対応するプログラム

### 【次世代撥水加工対応薬剤・処方の提案】

- ✓ お客様のCO2削減に貢献。bluesign等の環境認証製品として登録

### 【バイオ・リサイクル原料搭載製品の提案】

- ✓ お客様の脱炭素に貢献。最終商品のバイオ・リサイクル化の提案



繊維業界ではフッ素フリー化が進み、欧米を中心のアパレルの方針から提案機会が増加。数年かけグローバルアパレルに拡大

水系  
ポリウレタン  
樹脂



溶剤系から水系に加え、自動車用合皮の高付加価値提案プログラム

### 【高透明度合成皮革用表面処理剤】

- ✓ 透明度の高い合成皮革の防汚性や経時による黄変などの課題を解決できる技術を提案（特許技術）

### 【高耐久摩耗対応表面処理剤】

- ✓ 永遠の課題と言われる高耐久摩耗を実現。乗降耐久性の良いウレタン、PVC合皮に展開する

### 【グローバル供給】

- ✓ 日本、韓国、中国、メキシコ、インドネシア、タイでの現地生産、現地供給体制で提案する

### 【バイオ・リサイクル原料搭載製品の提案】

- ✓ お客様のバイオ・リサイクル比率向上に貢献する

自動車内装の加飾の高透明度化や高品位化のニーズが高まり、提案機会が増加

## 全社基本戦略 1.事業構造の大転換 (例/クリーニング用薬剤)

クリーニング事業では、主に大型リネン工場向けに薬剤管理システムを提案  
薬剤投入に関わる完全自動化による省人化、ローリー車納品や大型リユース  
タンク納品によるゴミ大幅削減など、生産DXによる経営課題解決に貢献



ローリーからの直接充填  
で薬剤容器ごみゼロ実現



液面センサーや流量  
計を組み込んだ正確  
な薬剤管理

遠隔操作で薬剤投入量の変更調整  
可能 (全国に多数の工場を有する  
企業でも本社集中管理可能)

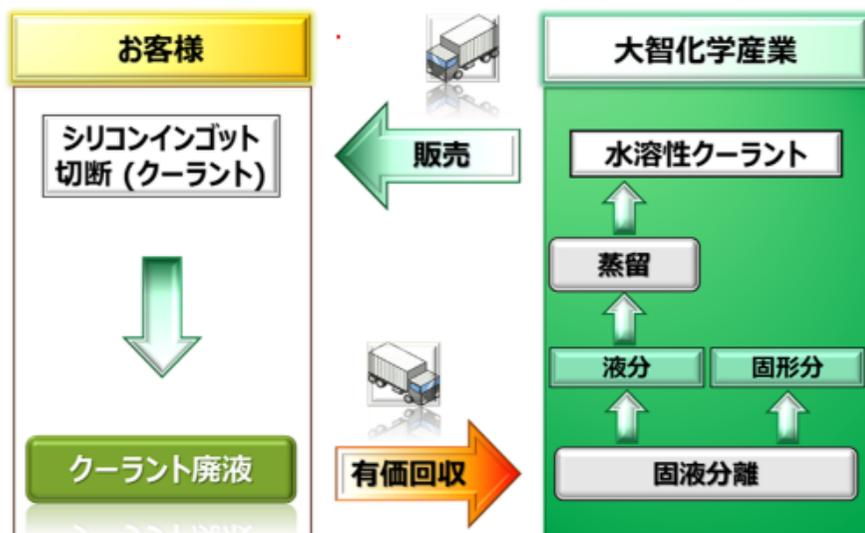


## 全社基本戦略 1.事業構造の大転換 (例/スペシャリティケミカル)

# 大智化学は、半導体シリコンウェーハ加工クーラント剤の資源循環型ビジネスの拡大で成長

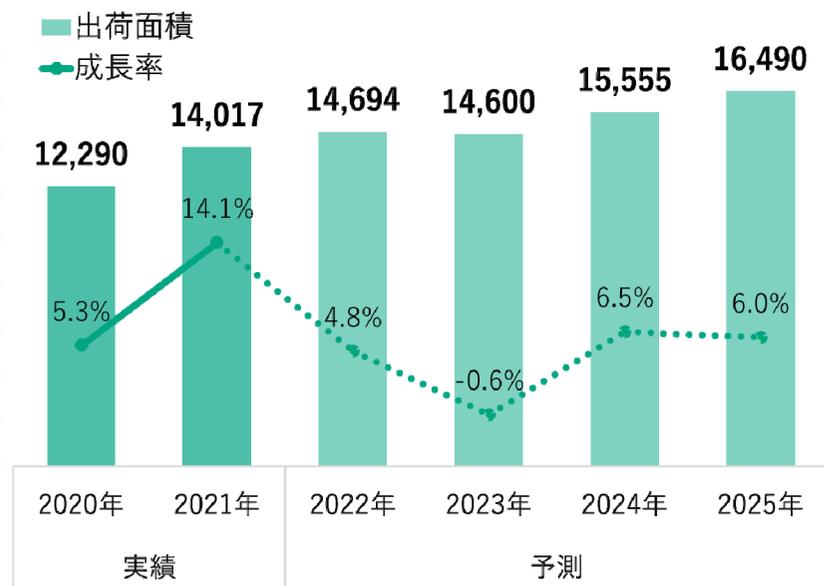
### 大智化学の資源循環型ビジネスモデル

ユーザー様に販売したクーラント剤をお客様使用後、廃液を有価回収、自社設備でリサイクルし、再び製品化し再販



### 半導体シリコンウェーハ出荷面積動向 (百万平方インチ)

23年は在庫調整もありマイナス予測も市場全体は堅調



出所：SEMI

## 全社基本戦略 4.サステナブル経営の推進 (CO2削減の取り組み)

# サステナビリティ委員会を新設、「TCFD」の枠組みに沿った事業インパクト評価を行うなど脱炭素社会実現に向けた企業としての取り組みを加速

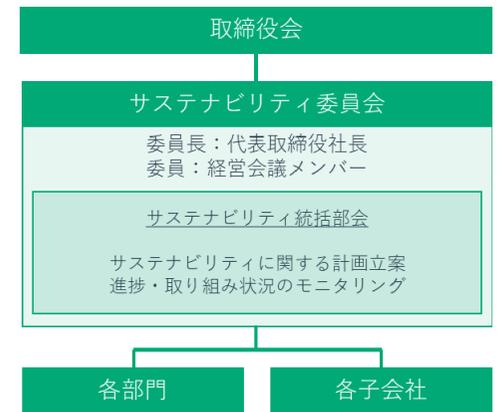
### 事業インパクト評価 (TCFD)

区分	要因と事象		影響種別	評価		現在の取り組み状況
				4°Cシナリオ	1.5°Cシナリオ	
脱炭素化社会への移行による影響	カーボンプライシング	炭素税の導入をはじめとする事業運営コストの増加	リスク	小	大	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ CO2排出量削減目標の設定</li> <li>✓ 再生可能エネルギー由来電力への切り替え</li> <li>✓ ポイラー更新による環境負荷低減</li> </ul>
	エネルギーコストの変化	再生可能エネルギー由来発電への切り替え等による購買電力価格の高騰	リスク	小	中	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 太陽光発電設備の設置導入</li> </ul>
	低炭素技術の進展	低炭素技術の開発及び脱炭素化を見据えたDX化の推進に伴う関連製品の需要拡大 (フッ素化学品、水系ウレタン樹脂、ほか)	機会	中	大	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 先端情報技術分野における技術応用及び事業推進</li> </ul>
	顧客行動変化	サブファイチェーン全体での脱炭素化ニーズ拡大による環境負荷低減ニーズの拡大	機会	小	大	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 環境系第三者認証の取得</li> <li>✓ 環境対応型製品開発に向けた技術投資</li> <li>✓ Smart Dyeing Processの提案</li> </ul>
地球温暖化に伴う物理的影響	異常気象の発生	自社拠点及び物流網の被災による被害規模の拡大	リスク	大	大	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ BCPの定期的見直し</li> <li>✓ 拠点別防災訓練・教育の実施</li> </ul>
	原材料価格への影響	原油価格高騰による石油由来原材料の需要変化、パーム油などの農作物系原材料の収穫不良に伴う価格高騰	リスク	大	中	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ RSPO対応パーム油の使用推進</li> <li>✓ 自然由来成分、天然系素材、バイオ系原料を用いた製品開発</li> </ul>
	平均気温の上昇	年間を通じた気温上昇をはじめとした適応ニーズの拡大 (冬物衣服需要の低下による化学繊維需要の縮小)	リスク/機会	中	中	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 界面科学、樹脂技術の活用による高性能ニーズへの対応</li> </ul>

### CO2総排出量

	CO2排出量 実績	
	2022年	2018年 (基準年)
CO2総排出量	20,617 t-CO2	27,107 t-CO2
内訳 SCOPE1排出量	9,166 t-CO2	11,898 t-CO2
SCOPE2排出量	11,451 t-CO2	15,209 t-CO2

### ガバナンス



# 全社基本戦略 4.サステナブル経営の推進 (SDGsの取り組み)

## 日華化学のSDGsの取り組み

マテリアリティ×SDGs	これまでの主な取り組み	外部評価 (2022年)
<p><b>【環境】 地球環境をもっときれいに</b></p>    	<ul style="list-style-type: none"> <li>● "ZDHC"に加盟 (日本初)</li> <li>● "bluesign® system partner"に認定 (繊維加工薬剤メーカーとして日本初)</li> <li>● NICCAイノベーションセンターが国土交通省のサステナブル建築等先導事業(省CO2先導型)に採択</li> <li>● ISO14001の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日経SDGs調査 3星</li> <li>● 日経スマートワーク経営調査 3星 (いずれも3年連続)</li> <li>● えるぼし 3星 (2020年12月認定)</li> </ul>
<p><b>【くらし】 より健やかな暮らしに</b></p>   	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 抗菌・抗ウイルス製品で感染症予防に貢献</li> <li>● スポーツアパレルへの機能加工やクリーニング用薬剤など</li> <li>● 健康で清潔な暮らしに貢献する製品を提供</li> <li>● 「髪健康と美しさを追求する」画期的な化粧品開発</li> <li>● ISO9001/ISO22716の推進</li> </ul>	
<p><b>【社会】 社会をより豊かに</b></p>   	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バングラデシュ繊維産業発展のための寄付</li> <li>● インドネシアにて排水対策セミナーの開催</li> <li>● 地域清掃、自衛消防など住み良いまちづくり活動</li> <li>● コロナ禍での県内修学旅行生受け入れ</li> <li>● 新興国からの留学生支援、身体障害者への奨学支援</li> <li>● ISO45001 (労働安全衛生) 取得</li> </ul>	 

輝け、カガクで。

# Activate Your Life

お問い合わせ先

 日華化学株式会社 IR担当

TEL:(0776)25-8584(直通)

Email : [matsushima@niccachemical.com](mailto:matsushima@niccachemical.com)

この資料には、2023年2月10日現在の将来に対する見通し及び計画に基づく予測が含まれています。  
経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。